知恵の樹

No. 122 2007. 9. 26

町田の図書館活動をすすめる会

事務局:町田市森野 3-1-12　増山方
〒194-0022　FAX042-722-1243

読書の意味　学校図書館の意義

～町田の学校図書館を考える会代表になって～

伴　紀子

私が生まれ育ったのは1960年代。日本が右肩上がりの経済成長を続けていた時代です。一億総中流などとも言われ、大人たちは経済成長の波に乗り遅れまいと、必死で働いていました。私の両親も同様で、いつも忙しくイライラしていましたから、読み聞かせをしてもらったことも、お話を聞かせてもらったことも私にはありません。本とは無縁の幼児期を過ごしました。

そんな私が本に親しむようになったのは、小学校に入学し学校図書館に通うようになったことがきっかけです。今でこそ学校は、学力低下の問題等でゆとりのない状態ですが、私が小学生だったころは、学歴競争が始まっていたとはいえ、まだ学校にのんびりした雰囲気があり、図書館もいつも鍵が開いていました。引っ込み思案で友達のいなかった私は、休み時間になると、教室で遊ぶクラスメートを避けるように図書館に通いました。

当時、私の通った学校に専任の司書がいたかどうかの記憶はないのですが、いつ行っても静かで居心地の良い空間でした。そこでどれだけの本を読んだでしょう。今となってはわかりませんが、ただひとつ自信を持って言えることは、学校図書館で出会った本が、私の心の支えになってくれたということです。

家でも教室でも孤独だった私にとって、図書館の本はかけがえのない友となりました。

親がいなくても立派に成長した主人公に生きる勇気をもらい、周囲の変化に戸惑い、辛い日々を送りながらもじっと耐え、そして再び静かで幸せな暮らしを取り戻した主人公に未来への希望を持つことを教わりました。

もちろん、幼かった私がそれらのことを意識して本を読んでいたわけではありません。それは、問題を解くように「わかった！」といった感覚ではなく、本を読んだ感動が幼い心に沁みこんで、成長とともにその感動が熟成されていくのだと私は思うのです。

しかし、今の子ども達の周辺を見ますと、ひとりの時間を過ごすための道具が溢れ、新たな経済成長の下、子ども達までもが市場原理に呑み込まれゆっくり本を読む時間は失われつつあります。少子化も手伝って、子ども達が日々の生活の中で様々な経験を積み重ねることも難しくなってきました。

そんな中、改めて本を読むことの大切さが見直され、保護者による読書ボランティアの活動も盛んです。私も息子が小学生のころ、図書館や学校で読み聞かせのボランティアをやっていました。「おばさんが本を読んでくれるのを、楽

しみに待ってる」と、うれしい感想を寄せてくれたお子さんもいました。

学校でのボランティア活動を通して得たことは大変貴重ではありますが、学校ボランティアという不安定な形での活動では限界があるということでした。一番難しかったのは、関わるメンバーの意識がバラバラで、本の内容の吟味が不十分なまま子ども達に読み聞かせをしてしまうという問題でした。結局、本の楽しさをどれだけ伝えられたか手ごたえの感じられないまま、息子の卒業と同時に活動は終了しました。

そして今、町田の学校図書館を考える会の活動に関わって思いを強くしていることは、全ての子ども達に等しく本に出会う機会を作り出せるのは、専任の司書が常駐する学校図書館をおいて他にはないということです。

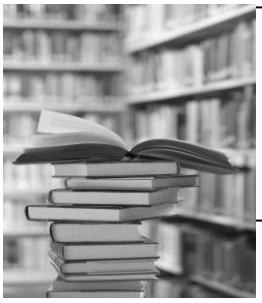
学校図書館は本があればいい、人がいればいいといった単純なものではないのです。

今、子どもの周辺にも格差が広がり、家庭で本に親しむことが難しいお子さんもいます。しかし、前述したように、学校図書館は全ての子どもが対象です。そして専任の司書はいつも、孤独な作業である読書の善き伴走者となってくれます。善き伴走者を得た子どもの読書はたいへん豊かで、子どもが自分自身で成長していく力を取り戻すことに繋がると確信しています。

町田の学校図書館を考える会の活動も十年を越えました。残念ながら発足当初と比べますと、関心をもって活動に参加してくださる方は減ってしまいました。それでも、灯したあかりを消すことなく地道に活動を続けています。

今年度は初心に返り、もう一度学校図書館の重要性を多くの人に伝え、広げていくことを目標のひとつに掲げました。

町田の学校図書館が、子ども達にとって豊かな図書館になるよう、これからも仲間と共に活動していきたいと思います。　　（ばん　のりこ）



蔵書点検を終えて

中央図書館奉仕係　中嶋　真

はじめに

5 月と 6 月に町田市立図書館の館内整理期間がありました。今年は堺市民センターの改装工事があるため、センターの中にある堺図書館は 5 月中に 3 週間休館させていただき、この期間を館内整理期間としました。また、6 月中に堺図書館以外の地域館は 1 週間、中央図書館は 10 日間、文学館は 1 日間を休館させていただき、館内整理期間としました。

この期間中の主な業務が蔵書点検です。併せて、書架の整理、館内の掃除、施設整備の小工事等も行っています。以下、今回の結果を報告します。

蔵書点検とは

町田市立図書館には約 100 万冊もの資料がありますが、中には無断持ち出しや、手続きミスといった原因から、行方不明となっている資料が存在します。蔵書点検を行うことにより、図書館のデータを適正にしていきます。

具体的には、書架にある資料のバーコードを小型端末で読み取って全て集積し、最後にこの集積データと、図書館システムのデータを突合します。この結果、元の図書館システムのデータでは「所蔵」なのに、バーコードがなぞられていなかった資料が「不明」となるのです。

他にも、このデータ突合によって、所蔵館の間違い、書庫と書架の排架違い、資料状態の

異常等も確認することができます。これらについても正しい状態に直す作業を行います。

最後に、利用者の皆様に気持ちよく図書館を使っていただくために、書架の整理と館内の清掃を行います。

蔵書点検の結果

今年の不明資料と蔵書数は下記の表の通りです。蔵書数と比して中央と金森の不明資料数が少ないのはBDS（貸出手続確認装置）の効果であると考えます。不明となった資料は、貸出手続きミス等も考えられるため、引き続きデータ上「不明」としておきますが、3回の点検を通じて発見できなかった場合は、データを消除する除籍処理を行います。今年は 4,376 点を除籍しました。

また、現時点（2007 年 7 月 5 日現在）の不明資料は8,118点ですが、蔵書点検で発見された新規不明資料は 1,424 点であり、昨年度の 2,063 点と比較して大きく減少しています。新規不明資料数は年々減少の傾向にあります。

新規不明資料と蔵書数
（2007 年 6 月 27 日現在）

	中央	さるびあ	鶴川	金森	木曽山崎	堺	文学館	合計
不明資料数	346	468	227	95	251	36	1	1,424
蔵書数	589,248	138,818	57,906	141,697	64,181	75,417	15,188	1,082,455

蔵書点検以外の作業.

先述のとおり、今年は堺市民センター全体の改装工事に併せて堺図書館の蔵書点検を行いましたが、長期間の休館中でなければできないような施設整備を行うことがあります。中央図書館でもこの期間を利用して、監視カメラの改修工事や6Fにある喫煙室を休憩室にするための改装等を行いました。

今後の課題

以上のように館内整理期間は図書館にとって重要な作業期間です。けれども利用者の皆様は、休館はできるだけない方がよいと思われていらっしゃることと思います。現在の小型端末の台数制限により、蔵書点検作業そのものの時間短縮は難しいです。しかし幸い、蔵書点検の第一目的である「不明資料のあぶり出し」について、今年の新規不明資料は蔵書総数の約0.2%というごく少数しかありませんでした。これを踏まえて、中央図書館（と文学館）、地域図書館の館内整理期間を隔年で実施すること等を検討しているところです。　（なかじま　まこと）

館内整理期間あれこれ　／　館内整理期間中、基本的に作業全体の進行管理を「システム担当」職員が行っています。これがなかなか大変なのです。整理期間前からの準備作業、特にコンピュータ上の設定（貸出日数や予約取置期間、更には延滞督促時期の調整等）について、線表を引いて計画を立て日々変更しなくてはなりません。今回は、堺図書館、堺以外の地域図書館、中央図書館、文学館とそれぞれ整理期間が違うので、館別に独自の設定変更をしなければならないことが面倒でした。また整理期間中には、各館間の資料搬送を停止したり解禁したりするタイミングを計らなければなりません。この時点を見誤ると各館の資料の在庫オーバーや搬送車両の重量限界オーバーが発生し、無駄な作業が増えてしまいます。整理期間後もコンピュータの設定を徐々に平常時に戻しながら、結果をまとめて評価を行います。なんやかんやで 4 月上旬から 7 月中旬にかけて「館内整理期間のための作業」に日々追われていたという所です。もう少し作業を簡易化できるとよいのですが・・・。

夏休み子どもフェアー特別企画

報　告

ビデオ上映「からむしと麻」（民族映像研究所作品）
＆ ワークショップ「からむしから 糸を作って遊ぼう」

○ 7月 29 日(日) 13:30～16:00
○ 町田市立中央図書館6F ホール
共催：野津田・雑木林の会
　　町田の図書館活動をすすめる会
協力：市立中央図書館

「野津田・雑木林の会」が企画、当会と共催、中央図書館協力というスタイルで、今年も“子どもと自然”をつなぐ夏休み企画”を開催しました。

今年で 4 回目を迎える自主企画ですが、身近な植物に目をむけ「衣」の原点の糸作りを体験してみようという今回の企画には、遠方から足を運んでくださった方も多く、当日の参加者は 50 名ほど。幼稚園児から高齢者まで、幅広い年齢層でした。（久保）

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

からむし織り体験記

渡 邊　梓

開場時間前から何組かの親子がそわそわとホールの前に集まっていました。

参加者には親子連れのほか、ひとりで見えた大人の方もいらっしゃいました。

私は恥ずかしながら今まで“からむし”というものを知りませんでした。何せ、『カラ“虫”』だと思ってたのですから(笑)。

皆さんはご存知かも知れませんが、からむしはイラクサ科の多年草です。茎の高さは1メートル以上になり、その姿はひまわりにも似ています。

からむしの茎には繊維が含まれています。古くからこの繊維を使った織物が各地で作られていました。

町田市在住で、10 年来市内各地でからむしを採取し糸作りを続けている松野敦子さんから、町田のからむしからとった繊維、それをよってつくった糸、それを編んで仕上げたベストをお借りして会場に展示。

しかし残念ながら今では日本国内に 2 箇所しか残っていないそうです。

そのひとつである昭和村のからむし農家の様子をビデオで拝見しました。

からむしから糸を作る作業は、収穫したからむしから葉をとり除き、一晩水につけ、表皮をはがし、そこから繊維質だけを取り出し、それを績って糸をつくるというたいへん手間のかかるものでした。

もう 80 歳を過ぎたかと思われる農家のお婆さんは、実に見事な手さばきで素早く繊維を取り出していました。しかし私がやってみると、なかなか繊維が取り出せず、力のいる地道な作業でした。はじめは隣の方と話しながらやっていたのですが、気がつくと話すことも忘れ、夢中になっていました。

繊維が取り出せたあとは、いよいよ績る作業です。繊維に水をつけながら丁寧に績っていきます。綺麗に繊維だけを取り出せていない私の からむし は、績ってもなかなか固定されず、すぐに緩んでしまいましたが、時間をかけ、なんとかかたちにすることができました。

出来上がった糸は、先生方の作品に比べると寂しいものでしたが、それでも「自分で作った！」という達成感が、なによりその糸を大切なものとしてくれました。

これは私だけに特別のことではなく、皆共通のようで、楽しげに自分の作品を大切に手にしていました。2時間半という長い講座だったため、当初小さいお子さんは飽きてしまうのではないかと心配しましたが、皆それぞれに楽しんでいる様子でした。

また最後に「とりのみじぃ」の語りも聞くことができ、不思議な空間に包まれました。楽しい時間をありがとうございました。

（中央図書館職員　わたなべ　あずさ）

ビデオを見た後は、床にシートを広げてワークショップ。前日に採取したみずみずしい からむしを使って、まずは糸になる繊維が、どこにあるのかをさがし、糸作りにかかる。大人も子どもも夢中になって楽しんだ。

これを機会に
身近な植物のもつ様々な可能性を

矢島　万理

7月29日（日）、まだ梅雨が明けきらないお天気の中、町田市立中央図書館のホールにて「からむしから糸を作って、遊ぼう」というプログラムに参加させていただきました。私が働いている武蔵村山市の都立野山北・六道山公園にも「からむし」が生えていて、いつも何かに利用できないかな、と考えていました。「からむしから糸を作れる！」 とお聞きして、わくわくしながら会場へ。野津田・雑木林の会のみなさんの温かい笑顔に迎えられました。

まずは福島県で実際にからむしと麻を出荷用に生産し、加工している方々のビデオを見ました。植物から糸をつくるには、多くの段階を踏まなければならないことがよく分かりました。また、今でも昔ながらの手法を守り抜いている人たちの誇り、自然の恵みを無駄なく利用するという伝統技術のすばらしさを再認識することができました。

ビデオの後はいよいよワークショップ！　昨日採ってきたからむしを一晩水に浸したものを、一人一本もらい、まずは茎の皮を剥きます。スーッと簡単にむけて長い皮が何本かできました。次に板の上に乗せ、ハマグリの貝殻を使って表面をそぎ、繊維を残す「苧ひき（おひき）」という作業をしました。本来は刃物 を使うようですが、ハマグリでも十分*。みるみるうちに緑色の皮から、白っぽい繊維が出てきました。この作業に、大人も子どももみんな夢中！　力を入れすぎて途中で切れてしまったり、とてもきれいな繊維を取り出せたり・・・。そして、できあがった繊維をより強くするためのより方についても教えていただきました。特に二本を一本にするやり方は、どれをどっちによるのか、慣れない私には少し難しかったです。

ついにできあがった薄緑色のからむしの糸！　それぞれ見せ合ったりしながら、最後には日本の昔ばなしを聞かせていただき、とても和やかな時間を過ごすことができました。これを機会に、身近な植物のもつ様々な可能性について、見つめ直していきたいと思います。

＊ 昭和村の方は「苧ひき金」という、手ににぎれる大きさの刃物を使いますが、その刃は、ちょうどハマグリの貝殻の縁ほどの厚さで、触れた感じもツルッとしてハマグリにそっくりです。

（NPO birth　やじま　まり ）

町田市小中学校図書指導員アンケート要望のまとめ（39／60 校回答）

さる3月に中央図書館にて町田の学校図書館を考える会主催のつどい「学校図書館のこれから」を開いた際、学校図書館の現状と指導員の要望などをもうすこし明らかにするため、ぜひアンケートをしようということになり、5～6月にかけて全小・中学校図書指導員宛アンケートを実施しました。7月に集計結果をまとめ全図書指導員に送りましたが、その中から自由記述で書いていただいた要望の主要なものについて簡単にまとめ、ここにご報告いたします。

施設面での要望： エアコンの設置とパソコン（蔵書・貸出管理用およびネット検索用）の導入については、ほぼ全校よりの要望。他に特に小学校で準備室・書庫のないところが多く不自由を感じている。図書館の広さに対する要望も多いが書架不足を嘆く声も大きい。ほとんどの学校の図書館が校舎の4階や隅にあり、子どもたちの学校生活から隔離された場所にあることも問題のひとつ。

教育委員会に対しての要望： あまりに要望が多すぎてまとめられないが、あえて言えば市教育委員会に「学校図書館に対するビジョンや図書館教育に対する展望」がまったく見られないことを嘆く声が大きい。市川市や袖ヶ浦市のように行政が主導して図書館教育の充実をすすめているところと比較すると、あまりにおざなりな対応にがっかりする。他の市が文科省のモデル事業などに積極的に手を挙げて補助金を獲得し、それを基礎に着々と改革を進めている事例を見れば、「町田市が財政難だから」という回答はなんらの説得力も持たない。また市の予算で必要な図書資料を揃えられないのであればなおのこと、ネットワーク化をすすめて他校の資料を有効利用できるようにするべきではないだろうか。市立図書館との連絡便もないため、現在では指導員が自腹を切って市立図書館へ出向き重い図書を抱え運んでいる。図書資料を十分に購入できない、必要な時にすぐ市立図書館から借りてくるシステムもないでは、まるで翼をもがれた鳥のようではないか。

またなかには「辞めるに辞められず飼い殺し状態」といった感想もあった。子どもたちのためと思い始めたのだが、後任がみつからず、またこのひどい状態では頼むに頼めず、続けざるを得ないという切実な声がいくつも挙げられている。「学校図書館司書を正規雇用（百歩譲っても嘱託）とし、他市と見劣りのしない待遇でよい人材を集めるべき」との意見が圧倒的多数。学校図書館はとても重要なところなので、優秀な人がいなければ十分な活用はできない。優秀な人を雇うにはそれなりの待遇で公募としなければ集まらないということは、常識といってよいだろう。

今年度は図書購入予算の上乗せ30万円がついたが、つかなかった学校も10数校あった。どうも台帳上の蔵書数の数字だけで判断されたらしいが、古書の割合を調べるとか、廃棄基準を明確に指示するといったこともせず、台帳の数字だけで文科省図書標準を達成しているかどうかを判断し予算の上乗せを決めたのは大きな誤りといわざるを得ない。つかなかった学校からはとても大きな不満が出たが、当然だろう。

日数や時間制限についての要望： 特に小学校では全クラスの図書の時間にいるようにするためには、1日6時間が必要。またほとんどの小・中学校で実質 1 日5～6時間仕事をしている人が多い。週 5 日の要望も強い。さらに夏休みや春休み中なども開館したり、蔵書点検などの作業に当てるケースが多く、年間 140 日は軽く越えてしまう実情がある。水曜日を入れなくとも年間160日以上が必要。

教育委員会主催の研修についての要望： いっときなくなっていた研修が復活したのは嬉しいが、内容的にはまだまだ不満が多い。教育委員会が図書館をどのように考えているのか、教育委員会からの明確なビジョンがまったく示されず、ただ図書館職員や他の人に丸投げのような形の研修では意

味がないとの声が強い。また現場での実践報告や他市の状況などについての情報を求める声もある。さらに情報交流の機会として重要なので、なるべく多くの人が参加できるよう機会を増やすなどの要望も多い。全員が参加できるよう交通費の支給も考えるべきではないだろうか。全員の交通費など微々たるものではないか！

学校図書館活用マニュアル(06 年発行)についての要望： 本当に使えるマニュアル(手引書)を作るつもりがあるならば、先ず最初に教育委員会の学校図書館に対するビジョンを示し、その上で現場の教員・指導員・市立図書館職員など学校図書館関係者が複数集まり、時間をかけて討議した上で作成するべきであるという意見が強い。学校図書館に対するビジョンを持たない人が作っても(残念ながら今回のこれはそのいい例となってしまった)、また実践に携わっていない人が作ろうとしても、それは使えない。やり方がわからない指導員、経験豊富な指導員も作る側に参加して作るべきとの意見も強い。現場の意見と実態を教育委員会が聞き、学校側にも理解協力してもらえるような内容を話し合って作ることが必要。

内容的には、現状でも工夫次第で実現可能な部分と、将来的に可能な部分を混同しないこと。理想論だけを展開されても困惑するだけだろう。また図書館運営にとって必須の蔵書管理(点検・廃棄・受入れ・購入図書選定・分類・補修 etc)に関する具体的方法が必要。さらに児童・生徒への貸出や読書案内のしかたなど、日々の活動に密着した内容についての要望も多い。効果的な実践例をのぞむ声も多い。

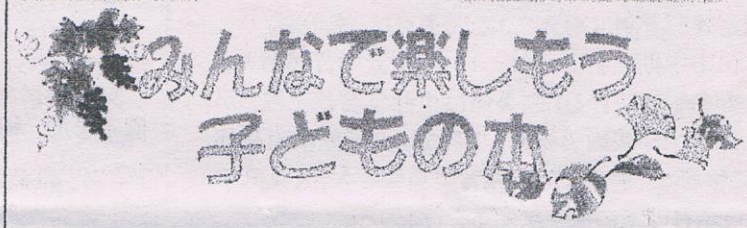
その他、学校、教員、市立図書館に対する要望などが多数寄せられた。指導員が孤立し、学校間の格差に悩み、日々孤軍奮闘している様がありありと見える。いったいいつまでこのまま放っておくつもりなのだろうか。

以上報告させていただきました。この結果を無駄にしないよう今後の活動を考えていきたいと思いますので、ぜひ皆さまのご協力もお願いいたします。

(水越)

今年度の連続講座チラシです。お近くの図書館でお手に取ってください。

子どもの本！連続講座　　町田の学校図書館を考える会主催



町田の学校図書館をより充実したものに！ を合言葉に毎年連続講座を開いています。今回はちょっと趣向を変えて、下記のような企画をいたしました。日頃から学校図書館に関わっている方はむろん、そうでない方にも十分楽しんでいただけると思います。ご家庭でも地域でもぜひ応用して下さい。関心のある方ならどなたでも大歓迎、ご参加をお待ちしております。また会の終わりには新刊を中心とした「オススメ本」の紹介もあります。

10月13日 (土) 中会議室 40人限定

学校図書館のかんたん&楽しい　装飾と展示

講師：　小林　公子氏（川崎市学校図書館コーディネータ）

川崎市の小中学校図書館での実践を中心に、季節の展示や装飾の仕方などをわかりやすく教えていただきます。アイディアいっぱいの楽しい装飾がすぐ作れます！　材料はこちらで準備しますので、手ぶらでお越しください。お持ち帰りできます。　　材料費　500円

11月17日 (土) ホール

アニマシオンを楽しもう ― 読書の森を仲間と歩けば

講師：　岩辺　泰吏 氏（まなび探検団アニマシオンクラブ）

アニマシオンって聞いたことありますか？　実際にはどんな感じにするのでしょう？　そして子どもたちの反応は？　長くアニマシオンの研究・実践を続けてこられた岩辺さんならではの楽しいアニマシオンのはじまり　はじまり～。　　資料費　500円

12月1日 (日) ホール

語りで聴く「たけくらべ」（音楽：関口 英樹氏）

講師：　伊東　陽子氏（多摩市立聖ヶ丘中学校図書館司書）

明治の女流文学を代表する樋口一葉のすてきな「たけくらべ」を語りで楽しむ会です。読んだことのある人もまだない人も、これを聴いたら絶対読みたくなりますよ。時代背景や作品についての解説もあります。
資料費　500円

お申し込みはお早めに！

場　所：町田市立中央図書館6階会議室もしくはホール
時　間：いずれも午後1時半～3時半
参加費：各回、材料・資料費として500円ずついただきます
申込み：伊（Tel&Fax 042-797-9579）
水越　（メール over-wim2.ocv.ne.jp）件名に「学校図書館講演会」と明記
他　：町田の学校図書館を考える会ホームページ

ひろば

＜7月例会＞25 日(水)
18:30～19:45
於・中央図書館中集会室

出席／伊藤、久保、島尻、辻、前島、

・ この日より、これまで例会に出られなかった人も参加できるようにとの意向で夜の会合となる。
○ 年間計画を立てて学習をしよう。
・静岡の「市民が作る図書館政策」、のようなものを町田でも作れないだろうか。そのためには「図書館とは何か」を原点に戻って学習し、共通認識を得られた上で話し合いに望むことが肝要とのことから、『新版図書館の発見』(NHK ブックス 2006 年改訂版)をテキストに9月より学習をすることに。次回は、『新版 図書館の発見』～図書館を考える。
・指定管理者制度導入による問題点なども学ぶ。
・町田市中期経営計画について/生涯学習部が大きく変わろうとしている。図書館は生涯学習部に残るが、市民ホール、版画美術館、博物館、文学館は市長部局に移管？ 戦後できた教育委員会を大きく見直すという名目の下に様々な変革を行おうとしている。
・図書館見学に行こう！
8 月 1 日にオープンするあきる野図書館とか、ハイテクを駆使して関連本は簡単に集められるとし千代田から日本の図書館を変えていくと豪語している今注目の千代田区立図書館も見学したいね。

○町田の学校図書館を考える会連続講座
①10/13(土)13:30 ～15:30 中央図書館6階中会議室/「学校図書館のｶﾝﾀﾝ&ﾀﾉｼｲ装飾と展示」講師:小林公子(川崎市学校図書館ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ)/材料費 500 円(伴☎&fax042-797-9579,7P 参照)

多摩市文庫連絡会との交流会
多摩文庫連の方たちが、町田市民文学館の施設見学に来られます。その時、当会と交流したいという要望があり、下記のとおり行うことにしました。参加できる方は増山まで連絡下さい。
10 月 23 日(火)
・10:00～12:00 文学館3F 会議室
施設見学(職員が案内してくれます)～交流会
＊施設見学をされていない方は、ご一緒にどうぞ！
・12:30～14:00「熊」にて昼食(会費 1000 円)

第6回 **文学館(主催)で楽しむ**
大人のためのおはなし会
10月18日(木) 10:30～11:30
町田市民文学館 2F大会議室
プログラム
遠藤周作のエッセーから・・・増田佳恵
月の光でさらさっしゃい・・小山千鶴子
月の精のかごや姫・・・・・市川美奈子
よだかの星 ・・・・・・・・望木裕子

秋のひととき耳からの文学を！
第 22 回 野津田丘の上 秋まつり
・11 月3日(祝) 10:00～15:30(雨天⇒11/4)
・野津田公園 ヤマナラシ広場
主催:野津田・雑木林の会/共催:参加団体
恒例の秋祭りです。
広場には、個性溢れる手作りのお店が並び、参加者もちょっぴりユニーク！
図書館活動をすすめる会・まちだ語り手の会も例年参加。本とお話のコーナーを設けています。

○「実感・共感・学校図書館」/ミニシアター・広瀬恒子さん講演・写真展/10月14日(日) 午後1時半～八王子労政会館/**主催:八王子に学校図書館を育てる会事務局** 篠原 042-635-7756)
○「はちおうじ読書の日」講演/「潤いのある暮しと図書館」糸賀雅児さん/10 月 28 日(日) 10:30～11:45/ 八王子市生涯学習センター視聴覚室(11F)/申込不要、先着 72 名/八王子市図書館主催・問:生涯学習センター図書館 042-648-2233)
○第 93 回全国図書館大会東京大会「つなげよう未来へ、ひらこう現在を 図書館は力」/１０月 29 日(月)～30 日/日比谷公会堂＆国立ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ記念青少年総合ｾﾝﾀｰ/日本図書館協会☎03-3523-0811
○子どもに豊かな育ちと読書のよろこびを/学校図書館公共図書館の充実を求めるつどい in 東京/11月3日(土)10:30～全労連会館(JR御茶ノ水駅から歩８分)/講師:早乙女勝元さん/問03－5211－0123(全教)

あとがき 毎日暑すぎる。地球の温暖化防止対策としてﾏｲｶｯﾌﾟを持参しよう！と、自動販売機でﾏｲｶｯﾌﾟを使っている映像が流れた。それよりも自動販売機をなくしたらと画面に向かって嘯く。市の経営計画も似たような発想だ。根幹部分がどうなっているのか見えてこない。「市民全てが希望の持てるまち」・・そうなれば本当に良いですね～。(M⁴)